



OFFICIAL NEWS LETTER

31 Dec. 2015 Vol.235

# J.LEAGUE™ NEWS



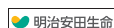
明治安田生命 Jリーグチャンピオンに輝いた広島でキャプテンを務める青山。攻守にわたる活躍でチームをけん引した

## 最優秀選手賞は青山敏弘(広島)

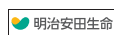
2015 Jリーグアウォーズ開催。今シーズン活躍の選手らが会した華やかな舞台で各賞の表彰が行われる

今シーズンのJリーグを締めくくる「2015 Jリーグアウォーズ」が12月21日に、東京都内のホテルで開催された。2015シーズンの総決算ともいべき催しで、選手や監督、審判などの功績をたたえて表彰を行い、オフィシャルパートナーやサッカー関係者らと共に和やかな時を過ごした。すでに発表されていた得点王、ベストヤングプレイヤー賞などに加え、この日新たに発表されたのが、最優秀選手賞、ベストイレブン、最優秀ゴール賞。最優秀選手賞を受賞したのは、明治安田生命Jリーグチャンピオンのサンフレッチェ広島で活躍したMF青山敏弘。ベストイレブンには最多12度目の選出となったMF遠藤保仁(ガンバ大阪)らが名を連ねた。(2~3ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TITLE PARTNER



J.LEAGUE™ TOP PARTNERS





# 2015 J.LEAGUE™ AWARDS

## 2015 J.LEAGUE™ AWARDS

# ベストイレブンに サンフレッチェ広島から3人

ベストヤングプレーヤー賞も広島の浅野拓磨

©J.LEAGUE PHOTOS

最優秀イレブンに選出された選手たち。後列左から西川、横野、太田、森重。中列左から塩谷、青山、金崎。前列左から遠藤、大久保、宇佐美、ドウグラス



©J.LEAGUE PHOTOS

最優秀選手賞の青山(左)に明治安田生命保険相互会社の根岸秋男社長が副賞の明治安田生命JリーグMVPトロフィーを授与



©J.LEAGUE PHOTOS

Jリーグ史上初となる3年連続得点王となった大久保。来シーズンの4年連続に意欲を示した



©J.LEAGUE PHOTOS

ベストヤングプレーヤー賞の浅野(左)。同賞のプレゼンターを務めたのは2015 Jリーグ女子マネージャーの佐藤美希さん

FIFAクラブワールドカップジャパン 2015 が閉幕した翌日に「2015 Jリーグアウォーズ」が開催された。Jリーグの村井 満チェアマンは冒頭のあいさつで、同大会3位の快挙を成し遂げたサンフレッチェ広島を祝福し、表彰式が始まった。

注目の最優秀選手賞の栄誉に輝いたのは、その広島でキャプテンを務めるMF青山敏弘。同クラブからは、2012年のFW佐藤寿人に続く2人目の同賞受賞となった。青山は主にボランチのポジションで攻守に活躍。長短のパスで

攻撃のリズム、得点チャンスをつくり、正確なミドルシュートで得点も挙げた。ボール奪取にも優れ、豊富な運動量でピッチ全体をカバーするなど、まさにチームのけん引車として年間優勝に貢献した。受賞のスピーチでは「僕は決してうまいプレーヤーではない。ですが、サッカーに対する情熱では誰にも負けない。これからも人に感動してもらえるような選手でありたい」などと、真摯な態度で話した。

ベストイレブンは広島から青山をはじめ、DF塩谷 司、FWドウグラスの3人が選ばれた。塩谷

は年間最少失点を誇った強固なディフェンスラインの一翼を担い、攻撃参加にも威力を発揮。初受賞のドウグラスはチーム最多、得点ランキング2位の21得点などの活躍が評価された。ガンバ大阪のMF遠藤保仁は自身の最多記録を更新する12度目の受賞。年間2位のチームにあって、35歳のベテランの存在感は際立った。G大阪からはFW宇佐美貴史が2年連続の栄誉。攻撃の中心としてチーム最多の19得点をマークした。

ドウグラスと共に初受賞となったのが、鹿島





©J.LEAGUE PHOTOS  
日本サッカー協会名誉総裁の高円宮妃殿下がフェアプレー賞高円宮杯を広島の森保監督に授与



©J.LEAGUE PHOTOS  
最優秀監督賞の森保監督は日本代表のヴァイッド・ハリルホジッチ監督から祝福を受けた



©J.LEAGUE PHOTOS  
最優秀育成クラブ賞の清水を代表して左伴繁雄社長(左)。右は河野俊嗣 宮崎県知事



©J.LEAGUE PHOTOS  
青山は最優秀選手賞、ベストイレブンに加え、最優秀ゴール賞も獲得した



©J.LEAGUE PHOTOS  
西村氏(左)は7年連続の最優秀主審賞(最優秀副審賞の相樂氏は国際試合を担当するため欠席)



©J.LEAGUE PHOTOS  
日本サッカーやJリーグの発展に貢献した功績が認められ、功労選手賞を受賞した、左から宮本、柳沢、中田、新井場、藤本の各氏



©J.LEAGUE PHOTOS  
Jリーグ年間王者の広島はの選手たち。優勝銀盃を持つ青山は「ここに立てて誇らしい気持ちでいっぱい」と感想を述べた

アントラーズのMF金崎夢生。2015 Jリーグヤマザキナビスコカップ優勝にも貢献し、SAMURAI BLUE(日本代表)への復帰も果たした。各2人が選ばれたのが浦和レッズとFC東京。浦和はGK西川周作、DF槇野智章、FC東京はDFの森重真人、太田宏介といずれも堅守を支えた守備の選手だ。

ベストイレブンの残る一人は、3年連続得点王にも輝いた川崎フロンターレのFW大久保嘉人。得点王受賞に際しては「自分でも3年連続で取れるとは思ってなかったので驚いてい

る」と謙虚に語り、「4年連続で取れるよう今まで以上に努力して、ここに立てるように頑張りたい」と、来シーズンの活躍を誓った。

また、1994年4月2日以降生まれで、明治安田生命 J1リーグ出場17試合以上などが条件となるベストヤングプレーヤー賞は、広島FW浅野拓磨が獲得した。広島からは2000年のMF森崎和幸以来となる(当時は新人王)。2015シーズンはJリーグ初得点を記録し、J1出場試合も前年の11から32へ増加した。特に交代出場で8得点などの活躍が光り、攻

撃の切り札として不可欠の存在に成長。期待の21歳は「これに満足することなく、自分に関わってくれる全ての人々に感謝を忘れず、より高みを目指したい」と抱負を述べた。

広島はその他、森保一監督が最優秀監督賞、青山が最優秀ゴール賞を受賞。青山のゴールは明治安田 J1 1stステージ第17節のサガン鳥栖戦で、左からのクロスを手で蹴り込んだ鮮やかなミドルシュートによるものだった。チームとしても4年連続、最多5度目となるフェアプレー賞高円宮杯が授与された。

## 「2015 Jリーグアウォーズ」受賞一覧 (丸数字は受賞回数)

|              |                                                                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 最優秀選手賞       | 青山 敏弘(広島、初)                                                                                                                 |
| (GK)         | 西川 周作(浦和、④)                                                                                                                 |
| (DF)         | 槇野 智章(浦和、②) / 太田 宏介(FC東京、②)<br>森重 真人(FC東京、③) / 塩谷 司(広島、②)                                                                   |
| ベストイレブン      | (MF) 金崎 夢生(鹿島、初) / 遠藤 保仁(G大阪、⑫)<br>青山 敏弘(広島、③)                                                                              |
| (FW)         | 大久保 嘉人(川崎F、③) / 宇佐美 貴史(G大阪、②)<br>ドウグラス(広島、初)                                                                                |
| 得点王          | 大久保 嘉人(川崎F、③)                                                                                                               |
| ベストヤングプレーヤー賞 | 浅野 拓磨(広島)                                                                                                                   |
| フェアプレー賞高円宮杯  | ★サンフレッチェ広島 ⑤                                                                                                                |
| フェアプレー賞(J1)  | ★ヴァンフォーレ甲府(初) / ★横浜F・マリノス(③)<br>松本山雅FC(J1で初、J2で②) / ガンバ大阪(④、<br>2011年に高円宮杯、J2で①) / サガン鳥栖(初)<br>川崎フロンターレ(②)、モンテディオ山形(④、J2で①) |
| フェアプレー賞(J2)  | ★ツエーゲン金沢(初) / ギラヴァンツ北九州(②)<br>徳島ヴォルティス(初、J1で①) / 愛媛FC(初)<br>ファジアーノ岡山(③)                                                     |
| フェアプレー賞(J3)  | ★グルージャ盛岡(初) / ブラウブリッツ秋田(初)<br>AC長野パルセイロ(②)                                                                                  |
| フェアプレー個人賞    | 谷口 彰悟(川崎F、初) / 中澤 佑二(横浜FM、初)                                                                                                |
| 最優秀監督賞       | 森保 一(広島、③)                                                                                                                  |
| 最優秀主審賞       | 西村 雄一 ⑦                                                                                                                     |
| 最優秀副審賞       | 相樂 亨 ⑧                                                                                                                      |
| Jリーグベストピッチ賞  | デンカビッグスワンスタジアム⑤ / 豊田スタジアム②<br>IAIスタジアム日本平⑨ / 北九州市立本城陸上競技場②                                                                  |
| 最優秀育成クラブ賞    | 清水エスパルス(初)                                                                                                                  |
| 最優秀ゴール賞      | 青山 敏弘(広島、初)<br>明治安田生命 J1リーグ1stステージ第17節、サガン鳥栖戦の得点                                                                            |
| 功労選手賞        | 新井場 徹 / 中田 浩二 / 藤本 主税 / 宮本 恒靖 / 柳沢 敦                                                                                        |

※フェアプレー賞は反則ポイントが少ない順。★は賞金授与対象  
※功労賞、功労審判員賞は今年度表彰なし



©J.LEAGUE PHOTOS  
村井チェアマンは冒頭のあいさつで「クオリティーの高い挑戦をもっともって続けていかなければならない」と決意を表明した



©J.LEAGUE PHOTOS  
Jリーグとパートナーシップ協定を結ぶ東南アジアのリーグ関係者も招かれた。右から2人目はJリーグの中野幸夫専務理事



# J.LEAGUE™ PUB REPORT 2015

Jリーグは2015シーズン終了にあたり「J.LEAGUE™ PUB REPORT 2015」を発行した。PUBとは「Participate」（参加して）、「Understand」（理解して）、「Build」（共に作る）の頭文字。さまざまな角度から眺めた客観的データや重要戦略の進捗の振り返り、それらの変化の兆しなどをまとめている。今シーズンのJリーグを振り返る上で、良かったことも悪かったことも包み隠さず掲載している本書から、一部を抜粋した。なお、Jリーグ公式サイトでは全ての内容を公開している。

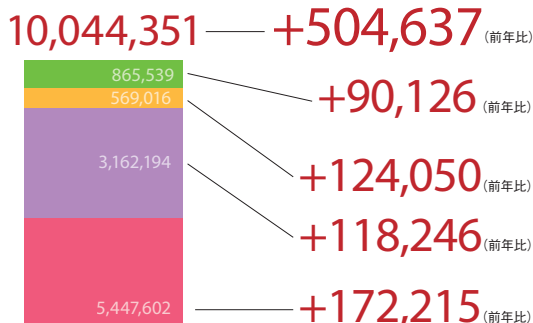
## 入場者数

入場者数の増加とプロフィール分析

### 入場者数は過去最高に

公式試合全ての年間入場者数は1004万4351人と1000万人の大会を超えて過去最高を記録した。内訳を見ると、明治安田生命 J1・J2・J3リーグ全てにおいて前年より入場者数が増加しており、これらの合計は917万8812人で、こちらも過去最高、初の900万人超えとなった。

年間総入場者数（人）



2014

2015

### 満員試合の大幅増

また、2015シーズンは盛況感のある試合の数が大きく増えた。明治安田生命 J1リーグにおける満員試合（収容率80%以上の試合）は、2014シーズンに比べ23試合増加の68試合となった。

満員試合数



今シーズン、2試合以上満員試合を記録したJ1クラブ

|           |            |
|-----------|------------|
| 12 試合 松本  | 7 試合 柏     |
| 9 試合 川崎 F | 5 試合 仙台    |
| 8 試合 湘南   | 5 試合 甲府    |
| 8 試合 G 大阪 | 3 試合 FC 東京 |
|           | 3 試合 名古屋   |
|           | 2 試合 浦和    |
|           | 2 試合 清水    |
|           | 4 試合 その他   |



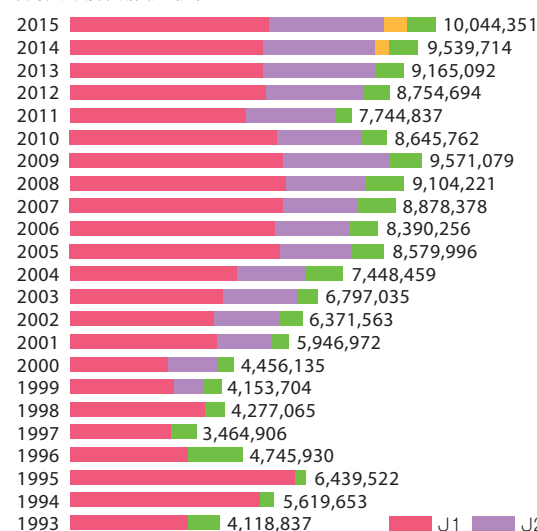
### 最終節の総入場者数が史上2番目に

平均入場者数についても、明治安田生命 J1・J2・J3リーグ全てにおいて、前年より増加。伸び率も明治安田 J1 では約3%（昇降格クラブを除く、15クラブの対戦での平均比較では約6%増）、J2 では約4%、J3 では約8%の増加となった。

J1 2ndステージ最終節では、全9試合のうち、浦和レッズ、柏レイソル、川崎フロンターレ、ヴァンフォーレ甲府、ガンバ大阪、サンフレッチェ広島島の6試合が満員試合となり、当該節の平均入場者数は2万8152人。これはJリーグ史上4番目に多い記録である。

また、この最終節の総入場者数は25万3366人で、史上2番目に多い記録となった。

年間総入場者数推移（人）



平均入場者数（人）



### Jリーグ&デロイトトーマツ分析

#### 大会方式変更とスタジアム改修などにより入場者数増加

2015シーズンで年間総入場者数が1000万人を突破し、過去最高の記録となったことは特筆すべきである。なかでも、J1リーグでは2008年の平均入場者数を頂点に微減傾向にあったが、ここ数年で歯止めがかかり、平均入場者数が伸びていることは非常に興味深い。

主な要因は以下のとおり。第一に、15年から導入された2ステージ制とチャンピオンシップにより新たな集客の山が創出されたこと。入場者数が伸び悩むシーズン中盤に1stステージの優勝争いがあり、優勝が決定した第16節では節別の平均入場者数が前年比で3328人増、1stステージ最終節の第17節では3446人増となっ

た。また、2ndステージ終盤では優勝争いだけでなく、チャンピオンシップ出場権を懸けた争いに加わった結果、同ステージ最終節の第17節では6269人増となり、最終節の総入場者数では過去2番目、節別平均入場者数は過去4番目となった。J1の18クラブ中12クラブが、2014シーズンよりも入場者数を増やしたことも注目すべきだ。

第二に、キャパシティが限られていたスタジアムの改修効果が挙げられる。例えば、川崎フロンターレは等々力陸上競技場のメインスタンド改修に伴い収容数が増加、平均入場者数を4338人増（前年比126%）と

した。2016シーズンは新スタジアムを使用するガンバ大阪でも同様の効果が期待できるだろう。

第三に、例年昇格クラブは入場者数を伸ばしているが、特に初めてのJ1となった松本山雅FCは、平均入場者数で4090人増（前年比132%）。満員試合も12試合とJ1最多を記録し、昇格クラブながら、18クラブ中6番目の平均入場者数となったことの効果が大きい。また、ホームゲームはもちろん、アウェイにも多くのサポーターが足を運んだことが話題にもなり、対戦クラブの入場者数も大きく増加した。J2・J3についても、昇格争いが入場者数の増加をもたらしたと考えられるが、一方で地域密着を大切にしつつ、地道な集客施策を展開したことが増加につながったと考えられる。



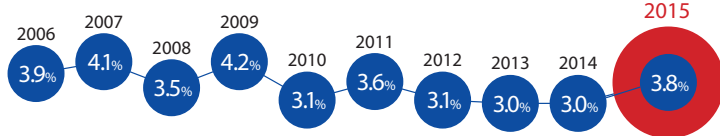
# 視聴率・関心度

視聴率上昇の中、課題も浮き彫りに

## 大会方式の変更による 視聴率の上昇と放送本数の増加

テレビ全体の視聴率が低下する中でJリーグの視聴率も低下してきたが、2015年は明治安田生命Jリーグ

Jリーグ全体の視聴率推移（地上波）



出典：ビデオリサーチ「テレビ世帯視聴率（関東地区）」

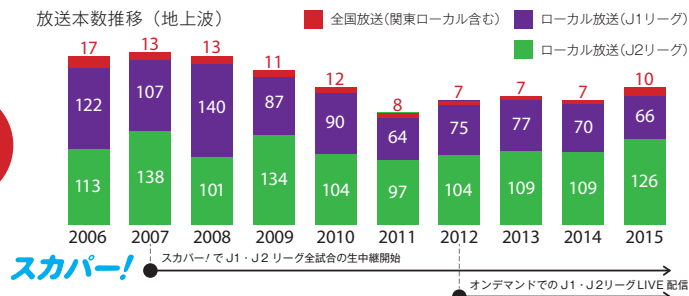
※ J1リーグ、チャンピオンシップの「生放送・全国放送（関東ローカル含む）」の実績

※ 放送が前半・後半などに分かれているものは平均値を使用

チャンピオンシップがゴールデンタイムで放送された影響もあり上昇に転じた。大会方式の変更により、14年から15年は全国放送（関東ローカル含む）の放送本数

が3本増加。J1・J2リーグはスカパー！で全試合が生中継されており、オンデマンド配信によるマルチデバイスでの視聴環境も整っている。

放送本数推移（地上波）



スカパー！

スカパー！で J1・J2 リーグ全試合の生中継開始

オンデマンドでの J1・J2 リーグ LIVE 配信

## 魅力的なフットボール

選手・クラブ・リーグが一体となった取り組み

### 「4つの約束」の効果が少しずつ

調査結果で「試合が面白くない」という声が目立つことをきっかけとして、Jリーグは2012年に試合のクオリティ向上を目指す「+Qualityプロジェクト」をスタートした。

「面白くない」要因を調査したところ「盛り上がり」が低下しているときにプレーが止まる、「プレーに関係ない異議や遅延

行為」などが挙げられた。これを受け、フェアでクリーンかつスピーディーでタフな試合の実現を目指すための「4つの約束」を掲げた。

Jリーグ全試合の「異議・遅延による警告数」、「リスタート・選手交代にかかった時間」、「アクチュアルプレーイングタイム」などをJリーグ公式サイトで公開。観戦時間をロスする行為を減らすことで、質の高いフットボールを提供すべく

活動を継続している。

### 4つの約束

1. 簡単に倒れない、倒れても笛が鳴るまでプレーをやめない
2. リスタートを早くしよう
3. 選手交代を早くしよう
4. 異議・遅延はゼロを目指そう

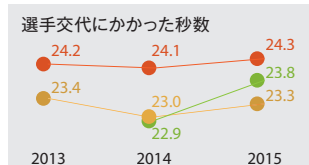
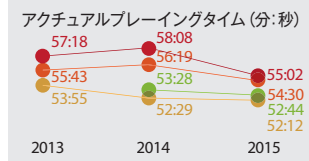
### +Qualityプロジェクト総括

2013年からの数字を見ると、良くなっている点もある。継続して、観客が不快に思うプレーを減らし、よりスピーディーで魅力あるフットボールの提供を目指す。

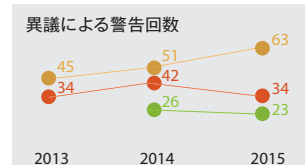
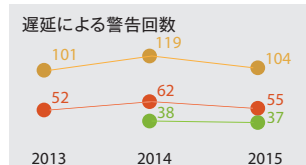
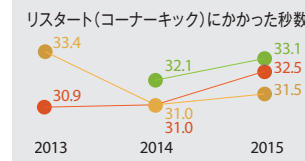
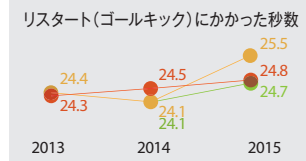
⊕「異議・遅延はゼロを目指そう」。全カテゴリーで遅延による警告回数が増え、J1、J3においては異議による警告回数が増えた。

⊖「リスタートを早くしよう」、「選手交代を早くしよう」。全カテゴリーでゴールキック、コーナーキック、選手交代にかかった秒数が微増。この積み重ねがアクチュアルプレーイングタイムの短縮に影響している。

● J1 ● J2 ● J3 ● ヤマザキナビスコカップ



※アクチュアルプレーイングタイムは、長い＝魅力的な試合、と定義される数値ではない。あくまで、異議行為や遅延行為といった、観戦者にとって不快と感じる行為をなくしていくための一つの指標



## “オン・ザ・ピッチ”に変化の兆し

### 数字に表れ始めた「面白さ」

シュート数とゴール数が増えたことは何よりの魅力。特に、ペナルティエリア外からのゴールは大幅に増加しており、積極性の上昇の表れといえるかもしれない。また、ワンタッチパスの比率やボールを奪ってからゴールまでにかかる時間も前年より向上しており、よりスピーディーな展開になっているといえそうだ。

空中戦が大幅に増えたことやタックルが増えたことから、コンタクトプレーが増えて迫力が増したと考えられる。

逆転勝ちの試合が増えたことや、試合序盤や終盤のゴールが増えたことも、観客にとって魅力的かつ印象に残る試合が多かったのではないかと。

スタツ／プレー

2014

|        |                     |        |         |
|--------|---------------------|--------|---------|
| 774    | ゴール数                | 820    | 5.9%UP  |
| 6,324  | シュート数               | 6,657  | 5.3%UP  |
| 23,278 | 空中戦数                | 26,764 | 15.0%UP |
| 12,997 | タックル数               | 13,155 | 1.2%UP  |
| 867    | ドリブルからのシュート数        | 906    | 4.5%UP  |
| 86     | ペナルティエリア外からのゴール数    | 123    | 43.0%UP |
| 40.0   | ワンタッチパスの比率          | 41.6%  | 1.6%UP  |
| 19.4   | ボールを奪ってからゴールまでの平均時間 | 17.9秒  | 7.7%短縮  |

試合展開

2014

|     |               |     |         |
|-----|---------------|-----|---------|
| 35  | 逆転勝ち試合        | 42  | 20.0%UP |
| 90  | 最初の 15 分のゴール数 | 99  | 10.0%UP |
| 186 | 最後の 15 分のゴール数 | 199 | 7.0%UP  |

※アディショナルタイムを含む

※データは J1

データスタジアム(株) 提供

## 経営人材の育成

Jリーグヒューマンキャピタル開講と展望

将来のプロスポーツ界の経営を担う人材開発・育成を目的に「J.LEAGUE™ HUMAN CAPITAL (Jリーグヒューマンキャピタル: JHC)」をスタートさせた。

その一環として立命館大学と提携し、一般の方々を対象に2015年5月より「JHC教育・研修コース」立命館マネジメント講座(基礎)を開講(16年2月に15年度プログラムが修了予定)。

講座は、立命館大学が提供するロジカルシンキング、リーダーシップなど、ビジネススキルを体得できる科目と、Jリーグが企画する、スポーツ現場の最前線で活躍するゲストを招いて行うゲストスピーチや、Jクラブの事例を対象としたケースメソッドなどを学び、Jリーグ、Jクラブが実際に直面する経営課題にグループで取り組みプレゼンテーションを行う。



国内外の多様なゲストを招いての講義。Jリーグの村井 満チエマン(右端)も熱弁を振る



# スタジアム 心浮き立つ「劇場」空間の時代へ

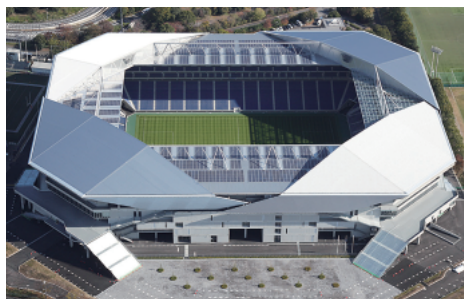
## スタジアムの2015年

2015年3月15日、南長野運動公園総合球技場が竣工した。05年に完成したフクダ電子アリーナ以来10年ぶりのサッカースタジアムの新設。1万5431人収容で、全ての観客席が屋根に覆われ、座席は背もたれの付いた個席だ。10月10日には、市立吹田サッカースタジアムが竣工。環境配慮、防災拠点、地域交流拠点をコンセプトに「みんなの寄付金でつくる日本初のスタジアム」として誕生した4万人収容のガンバ大阪のホームスタジアムである。

15年は、こうしたサッカースタジアムの整備が一気に加速した。4月16日には北九州スタジアムが起工式（安全祈願祭）を行い、7月には京都府議会でも新設の整備予算案が承認された。その他、山形、福島、名古屋、C大阪、長崎でもスタジアム構想が打ち出された。また、陸上競技場でも川崎フロンターレの等々力陸上競技場、FC琉球の沖縄県総合運動公園陸上競技場が大規模改修を終えた。

スタジアムの高機能化、活用でも変化が見られた。

8月には県立カシマサッカースタジアムに併設された「アントラーズスポーツクリニック」が開院。等々力ではJリーグ初となる来場者向け無料Wi-Fiサービスの提供がスタート。夜間照明のLED化も各地で始まった。新国立競技場の建設が社会問題としてクローズアップされたが、国内各地ではスタジアムを核としたまちづくりの視点をもち、地域活性化に向けて整備しようとする機運が高まっている。



2016シーズンから使用される市立吹田サッカースタジアム。募金やスポーツ振興くじ助成による資金調達は日本初



劇場のような南長野運動公園総合球技場。工期はわずか14カ月。U字型のスタンドは2層。アウェイ側スタンドのみ1層でピッチへの日照を確保



建て替えが完了した等々力陸上競技場のメインスタンド。スカイテラスやパラエティシートも充実。屋根の照明はLED

# デジタル技術の活用 顧客体験向上のためのSNSとデータ活用

## Jリーグのデジタル施策

Jリーグではデジタル環境の変化に合わせて強化施策を行っている。公式サイトはスマートフォンからアクセスできるようにし、その他Facebook、Twitter、InstagramといったSNSを強化するなどの施策を実施した。

その結果、アクセス数（訪問・閲覧）が増加し、Jリーグチケット（※）の利用増などにつながった。Jリーグチケット会員数も増加しており、2015年12月時点では20万人に達した。

海外トップリーグと比較してもSNSの活用状況など、さらに拡大できる余地があると考え、今後も継続して発信力の強化を行う予定だ。

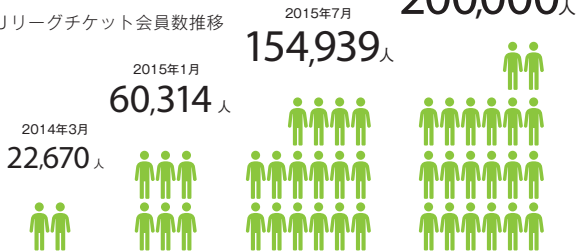
スマートフォン対応（2015年2月）



SNS強化  
(Facebook, Twitter, Instagram)



Jリーグチケット会員数推移



## ヤフーとの提携

2015年11月24日に、ヤフー株式会社と、Jリーグサポーティングカンパニー契約を締結した。本提携により、Yahoo! JAPANのメディアパワーを生かし、Jリーグの露出を高め、インターネットの力でスタジアムを満員にすることを目指す。また、発表と同時に、スポーツナビ上で明治安田生命 Jリーグチャンピオンシップ特集の公開を行った。



## 明治安田生命 Jリーグチャンピオンシップでの取り組み

明治安田生命 Jリーグチャンピオンシップ(CS)では、試合前後のインタビュー動画や、試合のダイジェスト動画の即時配信などを、Jリーグのオンデマディア(Jリーグ.jp)、ソーシャルメディア(Twitter, Facebook)、Yahoo! JAPANで提供。CS期間内に、5236万回の訪問(※1)があり、動画は473万回再生(※2)され、CSの露出向上につながった。

チャンピオンシップ期間内の Jリーグメディアへの訪問回数

5,236 万回

チャンピオンシップ期間内の Jリーグメディア内動画の再生回数

473 万回

※1 訪問数は、11月28日～12月5日の Jリーグの公式Twitterインプレッション数、Facebookリーチ数、オウンドメディアセッション数と、12月2～5日の Yahoo! JAPANとスポーツナビの、チャンピオンシップ連携コンテンツのセッション数の合計

※2 動画再生数は、11月28日～12月5日の Jリーグの公式 Twitter、Facebook、オウンドメディアと、12月2～5日の Yahoo! JAPANとスポーツナビの、チャンピオンシップ連携コンテンツの動画再生数の合計

# 国際戦略 グローバル化の鍵はアジアとの連携

## Jリーグの「アジア戦略」

代表選手のみならず、若手有力選手が海外にチャレンジするようになって久しい。これは代表強化につながる一方で、Jリーグの空洞化も招く。FIFA U-20 ワールドカップ ニュージーランド2015でも、日本はアジアの予選を勝ち抜けず、4大会連続で出場を逃した。これらの状況は、Jリーグの競技レベルが停滞し、放送権料などの事業収入にも悪影響を及ぼすという、負のスパイラルにつながりがねない。

一方でアジアにおいては、日本代表とJリーグの注目度が高いことも事実。30年前、ASEAN(東南アジア諸国連合)諸国に負けていた日本代表が、Jリーグ

の創設とともに急成長し、なでしこジャパン(日本女子代表)は世界チャンピオンにもなった。また日本は、八百長がなく、クリーンで、ファイナンス・フェアプレーが遵守され、老若男女を集めるスタジアムを有する世界でもまれなリーグ。Jリーグが持つ育成やリーグ運営のノウハウをアジア各国に無償提供し、アジアサッカーの発展・成長に貢献し連携することが必要である。

そのための枠組みとして、アジア各国リーグとの「リーグ間提携」を進めると同時に、「放送地域の拡大」に着手している。これらをベースに、2012年には「アジア戦略」を開始した。「アジアのフットボールマーケットの創出と成長」、「アジアフットボールの競技力向上」を目標に活動を展開している。

2015年(3～6月) Jリーグ 海外放送状況

中継放送時間 2,081 時間

中継視聴者数 1,014 万人

アジアの提携リーグ国



提携  
9カ国



# 2015 Jリーグ チェアマン総括

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン 村井 満



今シーズン、明治安田生命保険相互会社さまにタイトルパートナーとしてご支援いただき、「明治安田生命 Jリーグ」としてリーグ戦を開催した。明治安田 J1 はサンフレッチェ広島が2ndステージ優勝、年間勝点トップで明治安田生命 Jリーグチャンピオンシップに出場し、素晴らしいチームワークで大会を制し、3度目の年間チャンピオンとなった。また、日本開催となった FIFA クラブワールドカップでは、連戦の疲労や負傷を抱えながらもオセアニアやアフリカの代表、そしてアジアのクラブ王者を撃破し、見事に世界第3位の成績を収めた。J2、J3 も最終節まで混戦となり、J2 は大宮アルディージャが1年でJ1 復帰を決め、J3 は入会1年目でレノファ山口 FC が優勝、J2 昇格を果たした。

2015年は、より多くの方々にJリーグに関心を寄せていただくため、J1 を2ステージ制およびチャンピオンシップに大会方式を変更して開催するなど、変革にチャレンジしたシーズンであった。そんな今シーズンを振り返って、オン・ザ・ピッチとオフ・ザ・ピッチの両面から総括する。

## オン・ザ・ピッチ (フットボールサイド)

魅力的なフットボールを提供することを約束した Quality プロジェクトも4年目となり、今シーズンも選手、クラブ、リーグが共同で「4つの約束」を打ち立て、実行した。

試合の魅力を削ぐ行為は減少傾向が見られ、特に J1 の異議・遅延行為による警告回数は顕著に減少した。一方でリスタートは、コーナーキックが2014 FIFA ワールドカップブラジルの各試合平均から4秒の遅れがあるなど、まだまだ短縮できる余地があり、今後の課題といえる。引き続き、魅力を削ぐ行為を徹底的になくし、よりエキサイティングで質の高いフットボールを提供していきたい。

J1 全会場でのトラッキングシステムの導入により、これまで可視化することのできなかったピッチ上のあらゆるデータを取得し、分析・比較することができるようになった。こうしたデータを駆使することで、チームは監督や選手間のコミュニケーションの促進や、試合中に刻々と変わる戦況を、データを通じて分析し戦術に生かしたりするなど、競技力向上への活用が見込まれる。デジタルテクノロジーの活用は今後さらに強化していきたいと考えている。

データで振り返ると、J1 のゴール数が前年比

で5.9%増え、とりわけペナルティーエリアの外からのゴール数は43%増と大幅に増えた。興味深いのは、逆転勝ちの試合が20%増、ラスト15分間で決まるゴール数も7%増えた。例年にないスリリングな展開が多かったといえるのではないかな。さらなる分析が必要だが、新しい大会方式を通じてより短期間で結果を出さなければならない緊張感が数字に表れたともいえる。

今後も選手、クラブ、リーグが一体となって、ファン・サポーターをはじめ全ての皆さまに魅力的なフットボールを提供していくことを約束する。

## オフ・ザ・ピッチ (ビジネスサイド)

入場者数は J1・J2・J3 とともに昨年より増加し、全公式試合の入場者数が1000万人を超えたことは大きな成果であった。明治安田生命チャンピオンシップでは、決勝第2戦の視聴率が関東で10.4%、広島エリアでは平均35.1%と高い数字を記録した。多くの方々にJリーグに触れていただけたと思う。

一方で、大会の魅力の伝え方や集客の面など、まだまだ改善の余地がある。大きな変革に見合う成果を今後も継続して追求していく。

年初に打ち出した5つの重要戦略においては、あらゆる側面に変化の兆しを感じることができた。

スタジアムでは、春に AC 長野パルセイロのホームとなる南長野運動公園総合球技場が、秋にはガンバ大阪のホームとなる市立吹田サッカースタジアムが竣工した。市立吹田サッカースタジアムは日本初となる民間の寄付金とスポーツ振興くじ助成による資金調達で建設された。今後のスタジアム建設への大きな示唆となるだろう。

選手、監督に続き、経営者もプロ化すべきと、経営人材の育成にも着手した。5月に Jリーグ ヒューマンキャピタル(JHC)を開講し、志の高い43人が学んでいる。来年は選抜した数人がプロスポーツの現場に出て、さらに学びを深めることになっている。

さらに15年は、観戦者の満足度向上、新たな層へのアプローチに向けて、クラブとリーグが一体となって IT に投資することを決めたシーズンでもあった。今後はさらに動きを加速させ、スタジアムでの観戦体験の向上はもとより、試合のない日でも Jリーグに触れていただけるコンテンツ開発などにも取り組んでいく。

サッカーは世界中で愛されるグローバルコンテ

ンツであり、われわれは常に国際競争にさらされている。アジアのリーダーを、そして世界のリーダーを目指す必要性が高まっている。世界リーグフォーラムにおいて、アメリカ、ドイツ、メキシコ、フランスと共に、日本(Jリーグ)もワーキンググループに参加する(下記参照)。今後はその役割を積極的に果たしながら、国際市場での存在感を高めていく。

## 最後に

私は今シーズンのスタートにあたり、Jリーグ全職員にビジネスの世界でうたわれる成長サイクル「PDCAサイクル」にMを加えた「PD(M)CAサイクル」を徹底的に回すよう呼び掛けた。MはミスのM。サッカーはミスがつきもののスポーツ。だからこそミスを恐れず、さまざまなことにチャレンジする必要がある。選手やクラブがミスを恐れずにスタジアムで戦っている中、われわれリーグもまた、同じ目線でチャレンジし続けることを目指す。

刻々と移り変わる世界のサッカー情勢や経済動向に対応するために、Jリーグにもスピーディーな対応が求められている。これまでは当該シーズンの総括は翌シーズンの春以降に施策ごとに振り返っていたが、ことしからはシーズン終了後、速やかに総括することとした。その第1号を「J. LEAGUE™ PUB REPORT 2015」と題して Jリーグ公式サイトで公開している。

Jリーグは、全ての方に開かれた公共財である。皆さまの Jリーグだからこそ、皆さまの声に基づいて議論するべきだと考えている。皆さまから見てことしの Jリーグは、ボールを後ろに下げず、前に向かって積極的にチャレンジできていたのだろうか。それぞれの施策は皆さまにはどう映ったのだろうか。

賛否両論、さまざまな議論があることが Jリーグの財産。われわれは常にオープンであり、皆さまと議論しながら前に進んでいきたいと考えている。来シーズンの開幕までこのレポートを手にいろいろな所で Jリーグについて語り合っていたきたいと思う。そして来シーズンも、熱狂のスタジアムで皆さまにお会いできることを楽しみにしている。

最後に、今シーズン、Jリーグをご支援いただいた全ての皆さまに心より御礼申し上げます。

## 世界プロリーグ組織化へ 村井チェアマンがワーキンググループのメンバーに

フランスのパリで12月1日、第2回世界リーグフォーラムが開催された。同フォーラムには世界23カ国のプロサッカーリーグのトップが一堂に会し、Jリーグの村井 満チェアマンも出席。世界プロリーグの組織化を目指すワーキンググループのメンバーに選出された。

世界のプロリーグが情報交換などを通じて互いに発展することを目指し、共通の課題について国際サッカー連盟(FIFA)などと協議するため、

同フォーラムを恒久的な組織として立ち上げることに同意した。その立ち上げ準備を、JリーグやDFL(ドイツ)、MLS(アメリカ)など五つのプロリーグから成るワーキンググループに委ねることで合意。村井チェアマンは「ワーキンググループ5カ国の中に Jリーグが推薦されたことは大変な名誉でもあり、責任の大きさも感じている。今後、多くの関係者の意見を拝聴しながら、世界のサッカーの発展に貢献していきたい」とコメントした。





# サンフレッチェ広島が世界の第3位に

**FIFA**  
**CLUB WORLD CUP**  
**JAPAN 2015**

クラブの世界チャンピオン  
を決めるFIFAクラブワー  
ルドカップ ジャパン 2015が12月10～20  
日に横浜国際総合競技場(日産スタジアム)、  
大阪長居スタジアム(ヤンマースタジアム長  
居)を舞台に行われた。明治安田生命2015  
Jリーグチャンピオンシップに優勝してJリーグ  
年間王者となり、開催国代表として出場した  
サンフレッチェ広島は、2007年の浦和レッズ、  
08年のガンバ大阪に並ぶ3位の好成績。初  
出場した12年の5位から躍進した。

広島は初戦でオークランド・シティFC(ニュージーランド／オセアニア代表)を2-0、準々決勝でTPマゼンベ(コンゴ／アフリカ代表)を3-0と連破し、準決勝に進出。リバープレート(アルゼンチン／南米代表)には0-1で惜敗したものの、3位決定戦でアジア王者の広州恒大(中国)を逆転で2-1と下した。

明治安田生命チャンピオンシップ®決勝第1戦

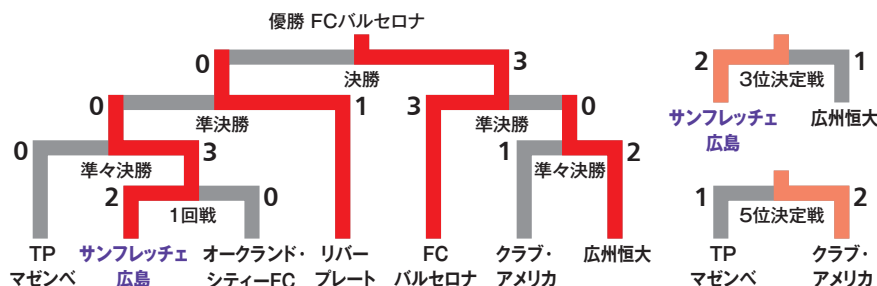
からこの3位決定戦まで、19日間で6試合を戦い抜いた広島は「タフな戦いになればなるほど粘り強く戦う」(森保 一監督)持ち味を存分に発揮した。一方、1997年にジュビロ磐田の指揮を執った広州のルイス・フェリペ・スコアFCチャンピオンズリーグ20アウトステージで戦った「柏レイソクオリティが高かった。日本サッ



3位決定戦に勝利して喜ぶ広島の選手たち

化した」と語った。

なお、決勝では、欧州代表のFCバルセロナ（スペイン）がリバープレートに3-0で破り、4年ぶり3度目の優勝を飾った。



## 2016(平成28)年度予算

Jリーグは12月8日に開催した総会で、2016(平成28)年度の公益社団法人 日本プロサッカーリーグの予算(正味財産増減計算書)を承認した。当期経常増減額のマイナスについては、16年度よりJ3リーグへのU-23チームの参加(最大4チーム※1)による運営経費増などが主な要因となる。

※1 2015年度11月理事会決議事項：J3リーグにおけるU-23チームの上限比率はJ3クラブの3分の1を超えない(2016シーズンのJ3クラブは13)

單位：百萬円

| 科 目           | 2015予算(A) | 2016予算(B) | 差額 (B-A) |
|---------------|-----------|-----------|----------|
| I 一般正味財産増減の部  |           |           |          |
| 1. 経常増減の部     |           |           |          |
| (1) 経常収益      |           |           |          |
| 基本財産運用益       | 0         | 0         | 0        |
| 受取入会金         | 85        | 25        | ▲ 60     |
| 受取会費          | 1,299     | 1,337     | 38       |
| 協賛金収益         | 4,589     | 4,755     | 166      |
| Jリーグ主管試合入場料収益 | 210       | 173       | ▲ 38     |
| 放送権料収益        | 4,973     | 5,055     | 82       |
| 商品化権料収益       | 570       | 567       | ▲ 3      |
| その他           | 1,639     | 1,632     | ▲ 7      |
| 経常収益計         | 13,365    | 13,543    | 178      |
| (2) 経常費用      |           |           |          |
| ① 事業費         | 13,025    | 13,380    | 355      |
| リーグ運営経費       | 2,745     | 2,893     | 148      |
| クラブへの配分金      | 7,012     | 7,390     | 378      |
| その他           | 3,268     | 3,097     | ▲ 171    |
| ② 管理費         | 249       | 224       | ▲ 25     |
| 経常費用計         | 13,273    | 13,605    | 332      |
| 当期経常増減額       | 92        | ▲ 62      | ▲ 154    |
| 2. 経常外増減の部    |           |           |          |
| (1) 経常外収益     | 14        | 0         | ▲ 14     |
| (2) 経常外費用     | 0         | 0         | 0        |
| 当期経常外増減額      | 14        | 0         | ▲ 14     |
| 当期一般正味財産増減額   | 106       | ▲ 62      | ▲ 168    |
| 一般正味財産期首残高    | 1,248     | 1,594     | 346      |
| 一般正味財産期末残高    | 1,354     | 1,532     | 178      |
| II 指定正味財産増減の部 |           |           |          |
| 指定正味財産期首残高    | 20        | 20        | 0        |
| 指定正味財産期末残高    | 20        | 20        | 0        |
| III 正味財産期末残高  | 1,374     | 1,552     | 178      |

※百万円未満を四捨五入。端数調整なし



## 11月度の月間ベストゴール、 月間MVPが決定

各月の明治安田生命J1リーグで最も優れたゴールを表彰する「月間ベストゴール」の11月度受賞ゴールに、川崎フロンターレのFW大久保嘉人が2ndステージ第17節のベガルタ仙台戦(11月22日)で80分に決めた得点選ばれた。細かいステップからタイミングを計り、豪快に決めたゴールだった。月間ベストゴールは、年間で最も優れたゴールに与えられる「年間最優秀ゴール賞」のノミネートゴールとなり、同賞は12月21日に開催の2015 Jリーグアウォーズで表彰された(3ページ参照)。

また、各月の明治安田J1・J2で最も活躍した選手を表彰する「明治安田生命Jリーグコカ・コーラ 月間MVP」の11月度受賞選手に、J1はサンフレッチェ広島 の2ndステージ優勝に大きく貢献したFWドウグラス、J2はJ1 昇格プレーオフ進出に大きな役割を果たしたアビスパ福岡のFWウェリントンが選出された。受賞選手には賞金として、J1 は30万円、J2 は20万円が授与される。



仙台戦で得点を決める大久保。この1点で得点王もほぼ手中に



11月に開催された2試合で  
4得点を挙げたドウグラス



攻守両面で10月からの8連勝を支えたウェリントン